

学校教育課だより

かけはし

「当たり前前ではない安心・安全」

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

鳥越 雅幸

風香る五月の土曜日、部活動の帰りだと思われる女子生徒二人が歩いてきました。途中二人は、家の庭先に入ってきました。二人は、庭先に干してあった傘を立てて、出てきました。風で傘がひっくり返ってしまったているのを見て直していたのです。二人は談笑しながら帰っていききました。二人の振る舞いは、五月の風にも勝る爽やかな風のようにでした。

さて、教育長の代理で御殿場市交通指導員歓迎会に参加しました。今回から教育委

員会の関係者も出席するようになったそうです。私が新規採用教員の時から三十年以上交通指導員をお務めになつていの方や、四十年もの長きにわたつてお務めになつてい名誉顧問の方の話を聞かせていただく機会を得ました。子どもたちの安心・安全を守る、地域の安心・安全を守るといふ強い使命感をもって交通指導をしてくださっています。また、子どもたちを固有名詞で呼んで、あいさつをしたり声をかけてくださったりしています。安心・安全のみなら

学校教育課だより
「かけはし」
【第 3 号】
平成 28 年
6月27日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

ず、子どもたちへの積極的生徒指導を行ってくださっています。

今回六人の交通指導員さんが退任され、六人の交通指導員さんが新任されました。後任の方を探すのは、区長さんの仕事のようですが、これがなかなか大変だそうです。受けてくださる方がそう簡単に見つからないそうです。雨の日も、寒さがしみる雪の日も早朝から交通指導に立ち、運動会や文化祭など学校行事がある時は、週休日であっても交通整理に立つてくださいませ。ボランティアアマインドがなければ、とても務まるものではないです。

多くの指導員さんの話を聞かせていただく中で、当たり前前ではない安心・安全があることを改めて実感しました。

また、子どもたちは、指示したことは素直に聞いてくれるようですが、ルールを守らない、たちの悪いのが大人だという、耳の痛い話を伺いました。我々大人が範を示さなければならぬことは言うまでもありません。

今日も雨が降る中、市役所の交差点で御殿場小の交通指導員さんが交通指導に立ってくださいっています。

経年研修等の充実

五月から六月にかけて、経年研修等に関わる多くの研修会を開催しました。

五月十六日には、今年度、新規研修会として設定した「学年主任等研修会」を行いました。本研修会は、「学年主任、ミドルリーダーとしての自覚を持ち、積極的に学年運営、学校運営に関わるとともに、急増する若手教員の育成にも努めること」を目的とし、各校から二十五名の先生方が参加しました。

講師は、学校等支援研修を活用し、総合教育センターから二名の指導主事をお招きし

ました。当日は、本研修会の目的に沿って、学年主任、ミドルリーダーが意識すること教師の力量が向上するときの二つの視点を掲げ、リーダーゲームとレゴブロックを使った二つの演習を基にして研修を行いました。リーダーゲームは、リーダー一人、中堅二人、部下二人の五人組で役割を分担し、リーダーのみが知るミッションを、ある制限の中で、中堅や部下にいかに早く正確に伝え、解決していくかというゲームでした。

また、レゴブロックの演習は、自分が教員として成長したきっかけとなった場面や今の若手教員の学校での様子をレゴブロックで自由に表現し、それを基にグループ内で説明



し合うといった内容でした。どちらも真新しい研修プログラムで、参加者も楽しみながら、自分の学校での役割を再確認し、自分のやるべきことの見通しを立てられたのではないかと感じました。

参加者は、「自分が今、何をしたらいいのか、何をすべきなのかが見えてきて、参考にになりました。特に、リーダーゲームでは、リーダー、中堅、部下それぞれの役割が明確になり、学校組織に置き換えて考えることができました。」と

感想を寄せており、校内における自身の役割を改めて自覚するよい機会となりました。

五月二十六日には、先輩教員による授業の参観を中心に据えた第二回市初任者研修会を、高根小・中学校を会場にして行いました。両校とも運動会（体育祭）を間近に控えた大変忙しい時期でしたが、高根小では、田方先生による四年生の社会の授業を、高根中では、山田先生による一年生の社会の授業、前田先生による一年生の理科の授業、植木先生による二年生の英語の授業を公開してくださいました。また、菅沼校長先生や朝

妻校長先生からは、それぞれ「学級経営の基本」、「子ども理解」というタイトルで講義をいただきました。

参加した初任者は、授業を公開してくださった先生方の子どもたちの「知りたい」「考えたい」という気持ちを引き出すための丁寧な教材研究や子どもたちのつぶやきを拾いながら子ども主体の授業を展開する姿を目の当たりにすることができました。

また、校長先生の講義では、様々な教育活動の中心が常に子どもであることが語られ、初任者は、子どもへの声（内面）にも目を向けられる教師になりたいという思いを膨らませることができました。高根小・中学校の先生方、本当にありがとうございます。

六月二日には、二年目の先生方を対象とした二次研修会（幼稚園参観）を御殿場原里、富士岡、玉穂の四園を会場に行いました。各園ともに幼稚園教育について園長先生から講義をいただいたり、担当学級に入り込み、実際の保育を参観したりするなど、幼稚園教育の今を肌で感じる貴重な経験となりました。子



どもたち一人一人を丸ごと受け止める幼稚園の先生方の姿勢は、初任研を終えた今の自分と、子どもたちとの関わり方について、改めて考えさせられる部分も多かったのではないかと思います。会場となった幼稚園の先生方、本当にありがとうございます。

【指導主事 小越隆則】

寄り添うことで

見えてくる

私が特別支援学校に勤務して間もなく、「あなたは、手のない人に手を使って何かをさせようとしていませんか。」と言われました。その一言は衝撃的でした。自分では良かれ

と思つてやっていたことが、的外れで、子どもに無理を強要していたとは……。

発達障害がある子どもたちは、その障害が見た目にはなかなか分かりづらいために、「わがままを言っている」「自分勝手だ」「努力が足りない」と思われがちです。しかし、一番困っているのは本人で、自分では何とかしたいと思つているのに、うまくいかず、イライラしたり、集団行動からはみ出たりして、私たちにサインを送っているのです。

ここで、その困り感を受容することが大切です。受容とは愛情をもって受け入れることです。そうでないと、「仕方がない子」「手がかかる子」という見方が、知らず知らずのうちにクラスの雰囲気にも伝わっていくことがあります。そのくらい教師の影響は大きいと感じています。

困り感を受容し、個別の対応をすることになります。思い切つて目標を一つに絞り、少し努力すれば達成できそうなものを設定します。目標や支援方法は、担任任せではなく、関係者で話し合い、共通理解する必要があります。「何

を許容し、何を指導すべきか」という線引きはなかなか難しいところですが、話し合うことで、その時点での目標が決まり、同じ方向性を持つて指導に当たることが出来ます。

あの手この手でその子に合った支援を仕掛け、少しでも目標に近づいたらほめる。その繰り返しではないかと思えます。スモールステップで根気がいる教育ですが、ほめられることが積み重なることで、子どもは情緒が安定し、良い方向に進むと信じています。各学校では、個別の指導計画に基づき、校内委員会、ケース会議を設け、支援方法を工夫しています。支援の幅を広げるためにも、ぜひ、学校教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回指導員を活用していただきたいと思えます。

【特別支援教育巡回指導員 瀬戸祐子】

